別紙様式２（高）

令和８年度　県立筑波高等学校自己評価表

目指す学校像	地域に支えられ、地域を支え、地方創生に貢献できる人財を輩出する学校 【 実 践 目 標 】正しい判断　　自主的行動 【育てたい資質能力】他者とかかわり協働する力　　自他を尊重し思いやる心　　粘り強くやり遂げる力

三つの方針		具体的目標
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	○　地域社会に目を向け、自己を高めながら社会に貢献できる力 ○　自己の課題を明確にし、主体的・意欲的に行動する力 ○　地域の人々と関わり、協働的に粘り強く挑戦する力
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	○　総合的な探究の時間「つくばね学探究」を基盤として、地域と連携しながら探究し、主体的に自己の進路を切り拓く学習活動の実践
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	○　学びの意義を見出し、日常での生活を前向きに取り組むことができる生徒 ○　地域社会の一員として積極的に社会と関わり、自己の将来を見つめながら学校生活を送れる生徒

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
【成果】 ○　学習指導 ・「つくばサポートタイム」等の取組により、学習意欲の向上と基礎学力の定着が見られた。 ○　生徒支援 ・マナーカード指導が定着した結果、服装や授業態度が向上した。 ・校内研修で情報交換等を行った結果、個に応じた対応ができた。 ○　進路支援 ・進路ガイダンスを充実させることにより、主体的に進路選択する資質・能力の向上を図ることができた ・自己の進路に向き合い、必要な情報を積極的に入手する生徒が増えた。 ○　その他 ・学校行事をとおして、学校やクラスへの帰属意識を高めることができた。特に百人一首大会など伝統行事の意義を共有することができた。 ・「つくばね学探究」をとおして、地域や近隣の中学校と連携を深めることができた。 【課題】 ○　学習指導 ・教員の専門性を生かした授業の展開 ○　生徒支援 ・全教職員の共通理解による「正装」の概念定着を目指す指導 ・生徒が自らの長所に気付き、伸ばすための働きかけなど、自己肯定感を身に付けるための動機付け ○ 進路支援 ・進路選択・決定能力を補うための、教員・保護者によるサポート体制の構築 ・進学支援体制の確立 ○ その他 ・ボランティア活動への参加推奨と、地域に貢献し、自主的に行動できる人材の育成	Ⅰ　基礎学力の確実な定着と進路支援の充実	①　学校設定教科「つくばサポートタイム（ＴＳＴ）」や習熟度別授業、少人数授業の積極的な実施により、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るとともに、就職のための社会人基礎力の向上に努める。 ②　自己の適性理解に向けた進路講演会の開催、「進路の手引き」や関係教材等を活用したＬＨＲを計画的に実施し、進路意識の高揚を図る。	
	Ⅱ　生徒支援の充実	①　生徒や保護者に学校の指導方針を伝え、学校と家庭が協力して、基本的生活習慣の確立に努める。 ②　「マナーカード」及び「Shihou カード」を効果的に活用し、生徒の自己管理能力や自己肯定感を高める。 ③　学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見に努め、組織として迅速に対応する。 ④　教職員自らが人権意識を身に付け、生徒理解に努め、生徒指導のスキルアップを図る。 ⑤　特別支援教育に関する理解を深めたり、カウンセリング的な相談スキルを高めたりすることで、生徒の自立を支援する。 ⑥　学校行事やボランティア等をとおして責任感、自立心、忍耐力を養い、自主的に活動するリーダー的人材を育成し、学校の活性化を図る。	
	Ⅲ　キャリア教育の充実	①　２年生におけるインターンシップ（希望制）や「つくばね学探究」を柱に、３年生では「つくばね学探究」で深化を図る。また、「キャリア・パスポート」等の活用をすすめることにより、キャリア教育を一層推進する。 ②　先を見通した体系的な進路指導を行うとともに、保護者へ進路情報を積極的に提供し、進路実現に向けた取り組みへの理解と協力を得る。 ③　各大学・短大の情報を整理し、進学意識の向上を図る。また、デジタル求人票を活用することで、就職内定率 100%となるよう、就職支援を充実する。	
	Ⅳ　地域や異校種との連携	①　地域の風土や自然及び教育力を生かす「つくばね学探究」をさらに充実させ、２年生及び３年生全員による体験的な学習活動を実施し、本校の目指す育てたい資質能力の育成を目指す。 ②　地域の義務教育学校訪問や大学と連携した百人一首大会等の伝統行事を行うことで、生徒に愛校心や郷土愛をもたせるとともに、地域を担う人材の育成に努める。 ③　中学校や義務教育学校と緊密に情報交換を行うことにより、信頼関係を構築する。 ④　つくば市との連携を積極的に図り、地域に根ざした高校として地域に貢献する。	
	Ⅴ　働き方改革の実現	①　各学年及び各部において、副主任が機能する組織づくりによって組織力を向上させ、働き方改革の実現を目指す。 ②　教育的効果を低減させることなく、会議、打ち合わせ等の業務の精選や実施方法の改善を図る。	
	Ⅵ　授業の改善	①　電子黒板やタブレット等の積極的活用と学び合いなどをとおして、生徒の理解力を高め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ②　教員相互の授業参観や意見交換等を積極的に行い、個々の教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲を喚起する。 ③　生徒による授業満足度 75%以上を目指す。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科 国　　語	基礎学力の向上	TT（ティーム・ティーチング）形式の授業や ICT 機器の活用により、生徒一人一人の状況に応じた指導を行い、基礎的な学力の定着を図る。 Ⅰ①			
		進学や就職に必要な基礎的な内容を反復して学習させることで、語彙力の充実を図り、基礎学力の向上につなげる。 Ⅰ①			
	生徒個々の進路希望に応じた表現力の向上	授業において作文指導や小論文指導の機会を設け、実践的な文章力を身に付けさせるとともに、進路選択に資する自己理解の深化を図る。 Ⅵ①			
		文章による自己表現を通して、自らの考えや他者の意見を的確に整理し、伝える力の育成を図る。 Ⅵ①			
		進学希望者に対しては、補充的・発展的な学習を取り入れるなど、進学を見据えた学力の向上を図る。 Ⅰ①			
	学校行事や ICT の活用による古典への興味・関心の向上	ICT 機器を活用し、古資料に触れながら古典の基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、古典に親しむ態度を育成する。 Ⅵ①			
		百人一首大会を通して和歌への興味・関心を高め、古典に親しむ態度を養う。 Ⅵ②			
	漢字検定の合格率の向上	小テストや演習問題を活用し、全体で３級以上 10 名程度の合格を目指す。 Ⅵ①			
		日々の授業において漢字や語彙を重視した指導を行い、検定合格への意識を高めるとともに、自学学習の習慣の定着を図る。 Ⅰ①			

別紙様式２（高）

教科 地理歴史	基礎学力の向上	基本事項を繰り返して指導することにより、歴史的用語・地理的用語の意味と正しい標記を理解させる。 Ⅰ①			
	思考・判断・表現をさせるための授業改善	生徒の思考・判断・表現を効果的に引き出すため、ＩＣＴ機器を効果的に使用する。 Ⅵ①			
		グループ活動、学び合い、発表、探究的な学び等を取り入れた授業を行うことにより、生徒の主体的な学習活動を促進する。 Ⅵ①			
	地理的・歴史的事象に対する興味・関心の向上	資料・映像等を効果的に使い、地理的・歴史的事象に対する興味・関心を喚起する。 Ⅵ①			
教科 公　　民	基礎学力の定着	現代社会の用語の学習をとおして、その意味を理解し、正しく標記できるようにする。 Ⅰ①			
	思考・判断・表現をさせるための授業改善	生徒の思考・判断・表現を効果的に引き出すため、ＩＣＴ機器を効果的に使用する。 Ⅵ①			
		グループ活動、学び合い、発表、探究的な学び等を取り入れた授業における教師の発問や学習テーマの設定を工夫することにより、生徒の公共心を育成につなげる。 Ⅵ①			
	社会的事象に対する興味・関心の向上	新聞やインターネットを教材として活用し、現代社会における政治や経済に事象に関心をもたせることにより、生徒の主権者意識を高める。 Ⅵ①			
教科 数　　学	履修内容及び基礎学力の確実な定着	ＴＴによる指導をとおして、理解が進んでいる生徒に対する発展的な課題の提示、理解に困難のある生徒に対する個別の指導を行うことにより、個に応じた学力の向上を図る。 Ⅰ①			
		学習内容以外に支援を要する生徒に対して補習を行うことにより、履修内容の確実な定着を図る。 Ⅰ①			
		ワークブックの活用状況を定期的に確認し、生徒の理解の程度を把握することにより、既習内容の復習を主体的に行う姿勢を育成する。 Ⅰ①			
		「つくばサポートタイム（ＴＳＴ）」の時間を活用して複数の教員が細やかな指導を行うことにより、基礎学力の確実な定着を図る。 Ⅰ①			
	個々の進路希望に応じた学習指導	進学希望の生徒を対象に、課外授業や補習による受験対策を実施することにより、個々の希望に応じた学習指導を実現する。 Ⅰ②			
	授業の工夫改善	教科内での授業参観を各担当者が年間１回以上実施し、板書や発問の工夫、授業形式の妥当性、ICT 機器の活用方法などの指導法を相互に検討することにより、授業の工夫改善を図る。 Ⅵ②			
教科 理　　科	基礎学力の向上	小テストの実施により生徒の理解度の把握に努めるとともに、その結果に応じた個別指導をとおして基礎学力の向上を図る。 Ⅰ①			
	実験や観察の充実	実験や観察授業を実施することにより、探究的な思考力を育む。 Ⅰ①			
	学習意欲の喚起	対話的な学習をとおして、自然事物に対する興味関心を高めるとともに、自然科学への学習意欲の向上をめざす。 Ⅵ①			
		ＩＣＴ機器の利用を通じてわかる授業の展開に努める。 Ⅵ①			
教科 保健体育	体力及び規範意識の向上	運動の合理的・計画的な実践をとおして、各運動の楽しさや心地よさを味わいながら、体力や運動技能を向上させる。また、服装面の指導をとおして規範意識や安全に関する知識を身に付ける。 Ⅰ①、Ⅱ③			
	生涯にわたって運動に親しむ資質の向上	各種の運動を仲間と主体的に実践することで、自分の得意な運動種目を見つけるとともに、体育理論を通じて生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成を図る。 Ⅰ①			
	生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していく活力ある人材の育成	生活習慣や交通安全、社会生活と健康等について、知識の定着を図る。また、生涯を通じて自らの健康について考え、適切に管理し改善していくための思考力や判断力を育成する。 １週間あたり３時間以上運動している人が 80%以上になるようにする。 Ⅰ①			
教科 芸　　術	表現能力の向上	感性を働かせ、思いや意図を能動的に構想したり表現したりする能力の育成を図る。 Ⅰ①			
		生徒の芸術的能力を見極め、個に応じた指導をする。 Ⅰ②			
	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	教員の芸術的資質の維持・向上のため、自己研鑽に努める。 Ⅰ①			
		芸術に対する生徒の興味・関心を引き出し、様々な芸術のよさや美しさを味わいながら主体的に活動する態度を育てる。 Ⅰ②			
		知的財産の保護と活用に配慮し、知的財産の重要性について著作権の基本的なルールから適切な引用や利用範囲について具体例を通して理解を深める。 Ⅰ②Ⅵ③			
教科 英　　語	基礎学力の定着と学習意欲の喚起	単元ごとに小テストを行うことにより、生徒の理解力を定期的に確認する。 Ⅰ①			
		生徒個々に必要な支援を行うことにより、粘り強く学習に取り組む姿勢を育てる。 Ⅰ②			
		長期休業中の課題と休業明けの定期テストを組み合わせることにより、家庭での学習の意欲を喚起する。 Ⅰ①			
	個の実態に即した授業展開と教材研究	生徒のニーズに即して ICT 機器や教材を活用し、授業内容の理解の促進を図る。 Ⅳ①			
		検定の取得や研修会への参加を通し、教員が自己研鑽に努める。 Ⅳ②			
		ALT を積極的に活用し、主として生徒のスピーキング、ライティングの力を高める。 Ⅰ②			
	授業改善に向けた教科内の協議の実施	４技能を統合的に育成する授業と観点別評価の在り方を検討し、授業改善に資する。 Ⅰ②			
		各施策について、教科会で話し合いを持ち、授業改善に努め、授業満足度を高める。 Ⅳ③			
教科 家　　庭	基礎的・基本的な知識と技術の定着	ICT 機器を効果的に活用するとともに、プリントやワークシートの内容を精選・工夫することにより、基礎的・基本的な知識及び技術の確実な定着を図る。 Ⅰ①、Ⅳ①			
		グループ活動による学び合いや、TT を活用した個別指導、課外授業の充実を通して、生徒一人一人の理解度に応じたきめ細かな指導を行う。 Ⅰ①			
	生活の充実・向上を図る資質・能力の育成	実験・実習や体験的な活動を積極的に取り入れることにより、学習内容の具体化を図り、実生活と関連付けた理解の深化を促す Ⅰ②			
		最新の話題やニュースと日常生活を関連づけることで、生徒が自らの生活課題を見い出しその解決に主体的に取り組もうとする実践的態度を育成する。 Ⅰ②			
教科 情　　報	情報収集と処理する技術の習得	情報を収集する上で、信憑性と真実性を考慮して正確で的確に処理する技術を身につけさせるとともに、情報の真偽に対する適切な判断力を身に付けさせる。 Ⅰ③			
	情報社会における情報の種類と、情報の有用性を通じた活用能力の習得	情報社会における情報の種類と情報の有用性について理解させるとともに、情報の活用能力を身に付けさせる。 Ⅰ②			
	情報社会のおける法規と権利についての知識習得	情報社会における知的財産権の種類と適応について理解させるとともに、権利として情報の利用と公開についての知識向上を目指す。 Ⅰ②			
	情報システムの構成についての知識習得	コンピュータの構成と動作環境について理解させるとともに、ハードウェアとソフトウェアの違いと役割について理解させる。 Ⅰ②			
	情報セキュリティの重要性と必要性についての理解	脅威に対する安全対策と情報セキュリティ設定方法に対する知識を身に付けさせる。 Ⅰ①			

別紙様式２（高）

	情報のデジタル化への知識向上	アナログとデジタルの違いを理解させるとともに、10 進数、２進数、１６進数の違いおよび各変換方法と計算式を理解させる。 Ⅰ①			
教科 商　　業	ビジネスの基礎的知識の習得と商業人としての資質の育成	ビジネスマナーと礼儀作法を通じて、卒業後の進路を見据えてビジネスマンとしての基本的知識を身に付けさせる。 Ⅰ①			
	ビジネス計算能力の向上	ビジネス計算を通じて、電卓の各機能の特性と使い方および、電卓操作に対する技術を身に付ける。 Ⅰ①			
	情報処理能力	入手した情報を適切に処理する力を身に付けさせるとともに、著作権、情報モラル及び情報セキュリティについての認識度を高めさせることにより、商業人としての資質を高める。 Ⅰ①			
		表計算ソフトを通じて、表計算ソフトの特質と各機能の使い方を理解させるとともに、グラフ作成および、各関数についての活用能力を身に付けさせる。 Ⅰ①			
	資格取得の奨励	卒業後の進路選択の広がりを考慮し、上級資格を取得させるための指導を工夫する。 Ⅰ③			
教　　務	基礎学力の確実な定着及び個に応じた発展的な学習の展開	各教科における指導と評価の一体化及び観点別評価を確実に行うとともに、授業担当者が自身の学習指導を振り返るための相互授業参観等の機会を年２回以上実施する。 Ⅰ①Ⅵ②			
		校内における相互授業参観や対外的な授業公開を行うことにより、指導方法の工夫と改善をとおして、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 Ⅵ①②			
		生徒の学習到達度や学習内容の理解の程度に応じて、習熟度別授業や少人数授業、TT による授業を行うとともに、ICT を活用するなど、生徒の主体的な学びの姿勢を引き出す。 Ⅰ①、Ⅵ①			
	事務処理の効率化	ICT 機器の効果的な活用及び運用マニュアルの見直しや改善をとおして、成績処理等の事務処理の効率化を図る。 Ⅴ②			
	図書館利用の促進と豊かな心を養う	学校図書館の役割・意義を教職員相互に再認識した上で、書籍の貸出しや読書をする場所の提供のみにとどまらず、生徒の主体的な学習活動の支援及び情報の収集・選択・活用能力の育成の場としての環境づくりを行う。 Ⅰ①			
		「図書だより」を定期的に発行するなどの情報発信を積極的に行うことにより、生徒の居場所としての図書館機能だけでなく、読書率向上につなげるような環境づくりに努める。 Ⅰ①			
		作文コンクールや読書会などの開催の周知方法を検討し、読書を通じて豊かな心と読書に親しむ態度を養う。 Ⅰ①			
	後援会活動の活性化	後援会役員と学校との連携を密にする。 Ⅱ①、Ⅳ④			
		後援会行事を活性化するため、保護者に対して学校の教育活動の情報発信を充実することにより、後援会活動についての理解を求める。 Ⅱ①、Ⅳ④			
進路支援	進路実現のためのキャリア教育の円滑な実施	キャリア教育を見据えた学習活動を実施するために、作文指導や面接練習、SPI 対策を円滑に実施するためのサポートを行う。 Ⅲ①			
		進路ガイダンスやバス見学会等の実施により、生徒が自分の進路を主体的に考える機会を増やす。 Ⅲ①			
	進路意識の向上と、進路実現に必要な自己力の育成	「進路の手引き」を発行し、生徒及び保護者の積極的な活用を促進することにより、キャリア教育の充実を図る。 Ⅲ③			
		外部（卒業生を含む）講師の講話や「進路指導の手引き」の活用等を通じて、自分の進路を考え、進路意識を高める。 Ⅲ①④			
		特別な支援や配慮を必要とする生徒に対して、特別支援コーディネーター及び外部機関と綿密に連携し、進路実現のための準備を早期から実施する。 Ⅲ②			
		企業や上級学校等からの来校者を通じて進路に関する情報交換を充実する。また、教員による企業訪問やインターンシップを積極的に行い、受入れ先企業の開拓につなげる。 Ⅲ②			
	個に応じた進路指導の工夫	安定した求人確保のために、ハローワークを定期的に訪問する。また企業を定期的に訪問し、本校の教育活動を具体的に説明することにより、求人の新規開拓に努める。 Ⅲ③			
		外部模試やスタディサプリ等を活用し基礎学力指導の充実を図り、四年制大学合格者数の向上を目指す。 Ⅲ③			
		求人票デジタルシステムを導入し、生徒及び保護者が学校以外でも情報を閲覧できるよう、使用方法を指導することにより、学校斡旋による就職決定率 100%を達成する。 Ⅲ③			
生徒支援	基本的な生活習慣の確立及びマナーやモラルの向上	登校指導や下校指導、昼休みの巡回指導等を計画的に実施することにより、生徒が安全で安心して過ごせる学校生活環境の整備を図る。 Ⅱ①			
		頭髪や服装等の身だしなみを整えさせるとともに、望ましい生活習慣の確立を促すことで、日常生活における意識の向上を図り、遅刻者数及び早退者数の減少を目指す。 Ⅱ①			
		「マナーカード」指導について教職員間の共通理解を図り、全教職員が一体となって生徒支援に取り組む。 Ⅱ②			
	生徒の問題行動等及びいじめ事案に対応する教員のスキルアップ	校内研修等を実施することにより、面談技術の向上を図るとともに、学校組織全体の生徒支援に関する指導力の向上を目指す。 Ⅱ④			
		いじめ事案への対応について教職員間の共通理解を図り、迅速かつ組織的に対応できる体制を整えることで、いじめの未然防止及び早期発見に努める。 Ⅱ③			
保健厚生	学校安全の確保	施設・設備の安全点検や清掃分担の工夫、清掃用具の適切な補充を行うことにより、安全で安心な学習環境の整備に努める。 Ⅱ①			
	教育相談の充実	防災訓練計画を見直し、災害発生時に生徒が自ら判断し、適切に行動できる力の育成を目指す。 Ⅱ⑥			
		教育活動全体の中で、生徒の些細な変化や支援を要する生徒の把握に努める。また、スクールカウンセラーを活用し、教育相談活動の充実に努める。 Ⅱ④⑤			
	健康教育の推進 学校安全の確保	定期健康診断結果を速やかに生徒に通知し、自己の健康観管理をサポートする。また、家庭との連携を図り、要精密検査の生徒が確実に医療機関につながるよう支援する。 Ⅱ①			
		保健だよりや掲示物等を活用し、自己の健康を意識させる。また、健康課題の解決に向けて主体的に行動できる生徒の育成を目指す。 Ⅱ①			
		施設・設備の安全点検や清掃分担の工夫、清掃用具の適切な補充を行うことにより、安全で安心な学習環境の整備に努める。 Ⅱ①			
特別活動	学校行事や委員会活動を通して、帰属意識、協調性、責任感を養う	学校行事を通して学校への期待感を高め、愛校心を育み、学校への帰属意識の高揚へとつなげる。 Ⅱ⑥			
		各種委員会を精選することで、存置した委員会の活動をさらに充実させ、委員会活動を通して、責任感・達成感・自己有用感を感じられるようにする。 Ⅱ⑥			
	部活動への積極的な参加とその継続を図る	部活動の地域移行について、校内会議、アンケート、研修、外部団体との意見交換を行う。 Ⅴ②			
	つくばね学探究の充実	有機的に繋がる三年間のつくばね学探究プログラムを、コース別に再構築する。 Ⅳ①			

別紙様式２（高）

つくばね学 Project		つくばね学探究プログラムの効果的、効率的な運用を図り、生徒の主体的かつ協働的な活動を促すとともに、教員の負担軽減に努める。 Ⅴ②Ⅵ①			
		外部機関との連携に努め、維持及び強化を図る。 Ⅳ①③④			
	つくばね学探究の対外発信	つくばね学探究の成果発表のため、外部コンテストへの参加を奨励する。 Ⅳ①			
	筑波山麓再興研究会の活動の充実	総合的な探究の時間での学びをさらに発展させる課外活動である筑波山麓再興研究会の活動の充実を図る。 Ⅲ①Ⅳ①			
１学年	基本的な生活習慣の確立及び地域とのつながりを意識した学校生活の指導	家庭との連絡を密にして協力しながら、生徒の欠席・遅刻・早退の数を減らし、基本的な生活習慣を確立できるよう指導の充実を図る。 Ⅱ①②			
		服装・頭髪指導をとおして、校則を遵守する大切さに気付かせ、実践目標である「正しい判断」ができる力を生徒に身に付けさせる。 Ⅱ①②			
		生徒との面談を適宜行ったり、保護者や SC、SSW との連絡を密に行ったりすることで生徒理解に努めるとともに、教員間で情報を共有し、問題行動等を未然に防ぐ。 Ⅱ①②③④⑤			
		「つくばね学探究Ⅰ」や学校行事の活動を通じて、地域との連携・共生を目指す。 Ⅳ①②			
		校内外での挨拶、校外ボランティアへの参加を励行し、地域とのつながりを意識して学校生活を送れる生徒を育む。 Ⅱ⑥			
	個々に応じた学習指導の充実、基礎学力の向上	生徒一人一人の状況を把握し、授業担当者や家庭との連絡を密にして学習習慣の定着や基礎学力の向上を目指す。 Ⅰ①			
		「つくばサポートタイム（ＴＳＴ）」を活用して、生徒の学習のつまずきを発見し、基礎学力の定着を図るための指導を充実する。 Ⅰ①			
		績不振の生徒に対し、学年職員全体で生徒個別に対応し、家庭とも連携しながら苦手科目を克服できるよう支援の充実を図る。 Ⅰ①			
	進路について自分で考えるための素地づくり	１年生から LHR、進路ガイダンスや体験学習などの進路学習の機会を活用して、進路実現に向けて個々の進路意識の素地を育む。 Ⅰ②			
		外部模試の実施や課外、講座等を活用して、生徒へ様々な情報を提供し、進路についての意識づけを図る。 Ⅲ②③			
２学年	正しい判断に基づいた自主的な行動と、地域との協働による社会参画意識の向上	家庭との連携を継続しつつ、生徒が自らの体調やスケジュールを自己管理（自主的行動）できるよう促し、欠席・遅刻等のさらなる削減と規則正しい生活の定着を図る。 Ⅱ①②			
		服装・頭髪指導を通じ、TPO に応じた「正しい判断」ができる力を養うとともに、学校の代表として自覚ある行動が取れるよう指導する。 Ⅱ①②			
		面談や SC・SSW 等との連携により生徒の小さな変化を見逃さず、教員間での即時共有を徹底することで、中だるみや孤立を未然に防ぎ、安心安全な集団を維持する。 Ⅱ①②③④⑤			
		「つくばね学探究Ⅱ」や行事を通じ、地域課題の解決に向けた協働的な活動を推進し、地域社会を支える人財としての当事者意識を育む。 Ⅳ①②			
		挨拶の励行に加え、ボランティア活動への主体的な参加を促し、他者を思いやる心と地域社会との確かな繋がりを実感させる。 Ⅱ⑥			
	基礎学力の定着と、他者と関わり協働しながら課題を粘り強く解決する力の育成	授業担当者・家庭と連携し、自らの弱点を把握した上で計画的に学習に取り組む「粘り強くやり遂げる力」と、基礎学力の確実な向上を目指す。 Ⅰ①			
		「つくばサポートタイム（ＴＳＴ）」を個別のつまずき解消だけでなく、生徒同士の教え合い（協働）の場としても活用し、学年全体の学力底上げを図る。 Ⅰ①			
		成績不振者に対し、学年団で一貫した指導を行い、家庭と共にスモールステップでの成功体験を積ませることで、苦手を克服しようとする挑戦心を支える。 Ⅰ①			
	地域の現状を理解し、将来の地方創生を担う一員としての自己の進路決定に向けた具体化	LHR やガイダンス、インターンシップ等の体験を通じ、1 年次の「素地」を「具体的な目標」へと昇華させ、自らの意志で進路を選択する力を育む。 Ⅰ②			
		外部模試や課外講座を積極的に活用し、客観的なデータの分析や高度な情報提供を行うことで、将来の地方創生を担うための具体的なキャリアイメージを形成させる。 Ⅲ②③			
３学年	社会の変化に対応しながら、より良く生きる力の向上	少人数授業やグループワークを通じて、発信力と思考の柔軟性を高める。 Ⅰ①			
		つくばね学探究をとおして、発信力、思考の柔軟性、情況把握力を身に付ける。 Ⅳ①Ⅴ①			
	学校と家庭との連携及び社会の構成員としての望ましい素養の育成	学校生活を通じて、社会のルールを守るだけではなく自らの行動を律することができるようになる。 Ⅱ①②			
		電子黒板、Classroom、タブレット端末等を積極的に活用し、進路支援において最新の情報を保護者、生徒に伝えることができるようにする。 Ⅲ②			
	生徒の進路実現を目指した学力の養成、キャリア教育の充実	ＴＳＴを活用し、生徒一人ひとりの目標に応じた支援を行い、進路実現を目指す。 Ⅰ①			

※評価基準　Ａ：目標が十分に達成された（達成度 80%以上）　Ｂ：ある程度成果が見られた（達成度 60%以上）　Ｃ：取り組んだ（達成度 40%以上）
Ｄ：課題を残した（達成度 20%以上）　Ｅ：取り組むことができなかった（達成度 20%未満）